

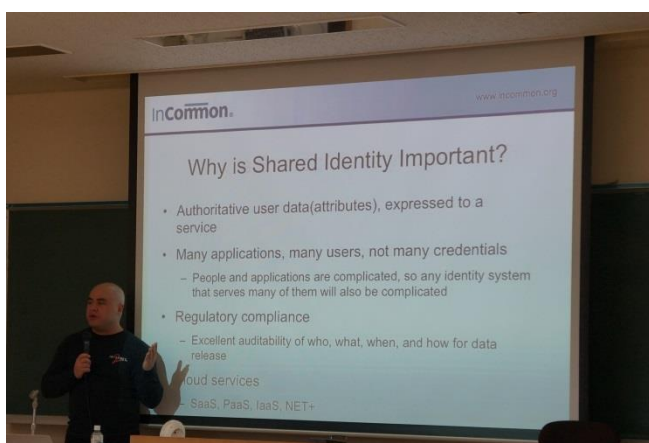
平成 25 年度松山大学図書館情報学講演会「図書館情報サービスと認証連携」 開催報告

司書課程担当
早瀬 均

本学（担当：司書課程）では、毎年学内外の学生、教職員及び一般市民を対象とした講演会を開催している。本年度は平成 25 年 12 月 14 日（土）に 3 名の講師を招いて標記講演会を開催した。講師と演題は以下のとおりである。

- (1) Nate Klingenstein (Internet2) 「認証連携の基盤」
- (2) 阿藤品治夫 (国立情報学研究所) 「図書館情報サービスと認証連携：学認」
- (3) 増田隆司 (愛媛大学) 「事例：大学における図書館情報サービスと認証連携」

最初の講演者 Klingenstein 氏は、米国の Internet2 において認証連携のソフトウェアである Shibboleth の普及にあたっておられる。



氏からは、「認証連携はインターネット時代においてネットワークサービスと大学等の研究教育機関を接続する重要な取組みである」こと、認証連携の学术界における取組みである「認証フェデレーション」は、サービス提供者や大学情報システムの負担軽減とともに、シングルサインオンやリモートアクセスなど研究者や学生の利便性向上に資す

るものであること、すでに世界では 35 の国でフェデレーションが形成され、米国のフェデレーションである InCommon には 400 以上の大学と 150 以上のサービス機関が参加していること等の紹介があった。また、我が国の大学に対するアドバイスとしては、まず大学において全学統一の認証データベース（DB）を構築することが重要であるとの指摘があった。

2 番目の講演者である阿藤品治夫氏は、国立情報学研究所（NII）において我が国の認証フェデレーションである「学術認証フェデレーション（GakuNin）」（以下「学認」という。）の普及に努められている。

氏は、フェデレーションは「い



つでもどこでも、簡単・セキュアに個人認証し、インターネットを利用しやすくする仕組み」であるとその効果をわかりやすく説明され、参加機関はまだ 80 大学と少ないが確実に増加していること、利用可能な情報サービスも 100 を超え、データベースや電子ジャーナルのほか、図書館システムやモバイル接続などサービスも多様になっていると紹介された。また、NII では取組みをさらに強化するため、学認を平成 26 年 1 月から事業化することを決定したとのことである。学認に参加を希望する大学等へのサポートの充実が期待される。

3 番目の講演者増田隆司氏は、愛媛大学において図書館の情報サービスを学認化する際にシステム構築を手がけられ、現在学内システムの統合学認化を推進されている。



氏からは、学認導入の経緯のなかで、認証フェデレーションについて関係者の理解を得ることに腐心されたこと、システム上の問題としては大学が複数の認証 DB を有していたため、ひとつの認証 DB のみを参照する学認の仕様に合わなかったが NII のサポートにより解決できたこと、学認に必要な認証情報が既存の DB

になかったことから追加を図ったこと等が紹介された。これらの点は今後学認導入を検討する大学にとって大いに参考になると思われた。

当日の参加者は、学生、一般市民、情報システム担当者及び図書館職員等であったが、参加者それぞれが認証や認証連携、シングルサインオン、図書館情報サービスの高度化等について改めて考えるきっかけになれば講演会の趣旨は達成されたと考えている。



情報交換会（左より Klingenstein 氏、阿藪品氏、増田氏）